

8) 新しい指標設定

【新指標－1】路線番号の認識できる交差点の割合

(→118頁)

定義：都道府県道以上の道路が相互に交わる交差点のうち、交差道路の路線番号あるいは通称名の付されている案内標識の整備されている交差点の割合

中期的な目標：平成 19 年度までに 90%まで向上

■ルート番号表示によるわかりやすい誘導

道路利用者が迷うことなくスムーズに目的地に到着。

【新指標－2】踏切遮断による損失時間

(→119 頁)

定義：踏切遮断による待ち時間がある場合と無い場合の所要時間の差

■踏切遮断の解消促進

踏切による損失時間の削減効果を確認し、対策箇所の重点化を推進。

(参考：公共交通支援・踏切関連費 3,363 億円 [平成 16 年度])

【新指標－3】「防災上課題のある市街地」の割合

(→120 頁)

定義：人口が集中している市街地のうち、都市基盤が脆弱なため、災害時に道路閉塞等により車輛通行が阻害され、緊急活動等に支障をきたすおそれの高い市街地の面積の割合

■「防災上課題のある市街地」の解消を図る

震災・火災等の災害に強く、安心・安全で暮らしやすい市街地の整備を進めます。

ルート番号表示によるわかりやすい誘導

～ 道路利用者が、迷うことなくスムーズに目的地に到着 ～

(1) 指標の動向

■ 交差点に設置されている標識に、交差する道路のルート番号を表示

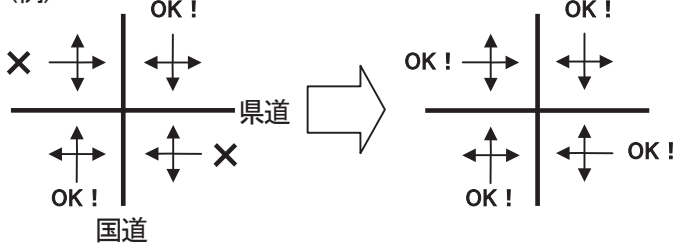
初めて訪れる人、観光客、外国人など全ての道路利用者が迷うことなくスムーズに目的地に到着できることを目指し、整備を推進。

■ 認識率は現在 6 割

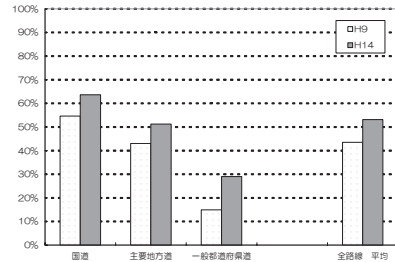
都道府県道以上が相互に交わる主要交差点は、全国で約 3 万 9 千箇所。このうち、交差する道路のルート番号が認識できる交差点は、現在、約 6 割。

国道を中心に整備率は上昇しているが、都道府県道同士の交差点については低い状況。

(例)



【進入方向に関わらず認識できるよう表示】



【道路種別別整備状況(平成9, 14年度)】

(2) 業績計画 (今後の取組み)

■ 自動車による移動の 7 割を担う都道府県道以上に重点化

国道+都道府県道の全道路に対する延長割合はわずかに 15%だが、そこに自動車移動の 7 割が集中。従って、国道及び都道府県道が相互に交わる交差点を対象とすることが効率的。

■ 景観やコスト面に配慮

景観や歩道幅への影響、コスト面などに配慮し、小型で簡易な表示を積極的に導入。

■ 目標の設定

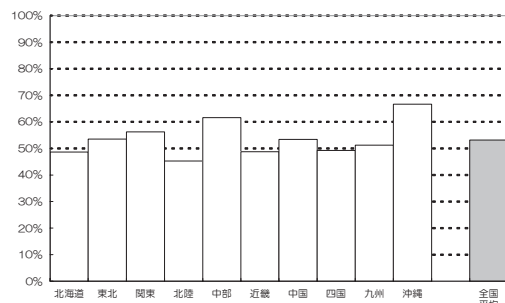
国道・都道府県道が交わる際に、ルート番号を認識できる率を、今後 4 年間のうちに 9 割まで上昇。特に直轄国道については 3 年を目途に概成。

H14 年実績	H15 年目標	H15 年実績	H16 年目標	H19 年目標
-	-	56%	65%	90%

○ 小型でコスト及び景観に配慮した標識の例



○ 地域別整備現況 (平成 14 年度)



担当：道路局 企画課